

1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0872100805
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	勝田ケアセンターそよ風
所在地 (電話番号)	茨城県ひたちなか市中根2444-1 (電話)029-353-3115

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.5人	

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名	要支援2			
年齢	平均 85.2 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	浦川会勝田病院、つちだ内科泌尿器科クリニック、齋藤歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、閑静な住宅地の一角に位置し、緑が多く長閑な雰囲気に入れ、また公園や大通りも近く、落ち着いて生活が営める環境にある。デイサービスセンターが隣接しており、利用者の交流も図られている。併設されているデイサービスセンターと、レクリエーションや外出、各種行事、入浴サービス等において、利用者の希望に応じた多機能的な連携協力体制を整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果をホーム内に掲示し、誰もがいつでも手にとって見れるようになっていく。評価結果は真摯に受け止め、よりよいケアの提供にむすびつけられるよう、具体的な検討に着手する予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目1つ1つに対して、どのように対応を改めていくべきか、実践現場における改善に取り組んでいる最中といえる。今後、その取り組みがしっかりと構築され、確かなものとなり、更なるケアの質の向上に発展していくことが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者代表及びご家族代表、自治会の役員や市役所の担当者等々、ホームの運営に関係する多くの方々の出席頂きながら、定期的実施されている。議事録を整理し、なるたけ活発な会議となるよう心掛けている。市役所の、特に高齢福祉課を中心に、情報交換や連絡調整を心掛けている。ホームにおけるケアの質の向上を高められるような活発な連携となるよう、働きかけを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月単位で「そよ風たより」を発行し、利用者の日々の過ごし方の様子を家族に報告している。たよりに、家族に了解を頂いた方のみ写真を掲載している。また、小口現金管理を行っている方の場合、出納帳をつけ、適時報告を行っている。ホーム内に意見箱を設置し、広く家族等からの要望や意見を募っている。但し、意見等の大半は直接口頭で受け付けている現状で、その都度、さまざまな声に耳を傾けて、具体的な運営の改善を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への積極的参加や、地元小学校との連携、事業者のイベントに地域住民を招待する等、さまざまな取り組みがなされている。自治会には加入していないが、回覧等を通じて接点を持っている。今後、さらなる働きかけを行なっていく予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念は、主として「地域に愛されるサービスであること」と、「地域に支えられ、必要とされるサービスであること」と整理している。その理念のもとに、日々のケアや地域との関わりを実践している。		地域に根ざしたサービスの実践のための理念が、職員意識の中に芽生えている。しかし、目に見える意識に依拠するのではなく、明確な文面や具体的象徴的な行動等の整備を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議(3回/月)や申し送り時等において、管理者から職員皆にむけて理念を発信し、共有化を図っている。職員ひとりひとりが、どのような理解を念頭にしてケアにあたるのか、考えながら実践にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への積極的参加や、地元小学校との連携、事業者のイベントに地域住民を招待する等、さまざまな取り組みがなされている。自治会には加入していないが、回覧等を通じて接点を持っている。今後、さらなる働きかけを行なっていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をホーム内に掲示し、誰もがいつでも手にとって見れるようになっている。評価結果は真摯に受け止め、よりよいケアの提供にむすびつけられるよう、具体的な検討に着手する予定である。		評価項目1つ1つに対して、どのように対応を改めていくべきか、実践現場における改善に取り組んでいる最中といえる。今後は、その取り組みがしっかりと構築され、確かなものとなり、更なるケアの質の向上に発展していくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表及びご家族代表、自治会の役員や市役所の担当者等々、ホームの運営に係る多くの方々の出席頂きながら、定期的実施されている。議事録を整理し、なるたけ活発な会議となるよう心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の、特に高齢福祉課を中心に、情報交換や連絡調整を心掛けている。ホームにおけるケアの質の向上を高められるような活発な連携となるよう、働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月単位で「そよ風たより」を発行し、利用者の日々の過ごし方の様子を家族に報告している。たよりに、家族に了解を頂いた方のみ写真を掲載している。また、小口現金管理を行っている方の場合、出納帳をつけ、適時報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、広く家族等からの要望や意見を募っている。但し、意見等の大半は直接口頭で受け付けている現状で、その都度、さまざまな声に耳を傾けて、具体的な運営の改善を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が生じる場合は、異動前に、利用者懇切丁寧な説明を行っている。利用者が不安を抱いたり、不穏に陥ったりしないよう、言葉を選んで声かけしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への研修は、オンザジョブトレーニング方式で実施している。その他、職員の希望や自発性を尊重した研修支援を行っており、従来の業務に支障が出ないよう配慮した教育体制が整備されている。	○	研修参加者に偏りが生じないよう、憂いをどのように払拭するか、十分な検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内の他の事業所との情報交換や交流が図られている。市内にはグループホーム連絡協議会がまだ未発足であるため、地域の同業者との交流機会は決して多くはないが、入所希望の相談等、必要に応じたつきあいは相応に図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用を希望ないし検討している方があれば、家族を含めて、説明を行い十分に納得していただいた上で利用していただけるよう対応している。その際には、写真付きのパンフレットを用いてわかりやすい説明を心掛けている。	○	希望に応じて、体験利用できる体制がある。今後は、その期間や料金等々に関する詳細を提示し、よりわかりやすく安心して、そして馴染みを持って利用できる体制となるよう、期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が気軽に職員に生活の相談をできる、そのような関係作りに努めている。また、生活の営み方も、利用者主体を基本としながらも、必要に応じて職員主体で企画したり、共になって築いていくというスタンスを重んじている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりに対し、生活の営みの中でどのような希望があるかを定期的に尋ねるかわりを行っている。また、その希望に即したケアを全職員が一貫して対応できるよう、随時の検討や情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意見を反映した介護計画の作成を心掛けている。近く、介護計画に用いる書式の見直し等を予定している。	○	利用者の生活に対するアセスメントの充実化、また、それをもとにしたケアプラン作成を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。見直しは、まず担当者が行ない、その結果を別の職員が集約、修正によってまとめるという2段階によって経過評価を行っている。モニタリングは日常生活動作を中心とした視点で行われている。	○	全人的な福祉サービスの提供を考えるために、多角的なケアの見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスセンターと、さまざまなサービスの連携協力体制を整えている。レクリエーションや外出、各種行事、入浴サービス等において、利用者の希望に応じて多機能的に対応している。また、理美容においては、職員に有資格者がいるため、無料でカットやカラーリングの提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の頻度で、嘱託医による往診を受けている。その他にも、他の医療機関への受診の際に、必要に応じて紹介状を頂ける体制を整えている。医療機関は利用者の希望に応じて選定できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期における対応について、まず入所時に丁寧に説明を行っている。また、そのような事例が生じれば、職員皆で今後のケアについて検討を行い、家族やかかりつけ医と話し合いの場を設け、関係者皆で方針を共有していく。	○	対応については口頭説明のならず、書面交付によって明確に行えるよう、検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者1人ひとりのケース記録や支援状況の個人情報は、書庫管理によってプライバシー保護している。トイレへの誘導や入浴介助等、生活のケアの場面におけるプライバシーへの配慮については、周囲の方々の目をしっかり意識して、丁寧な対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	申し送りノートを用いて、毎日の生活の営みの中で把握された利用者1人ひとりの情報をつぶさに記録し、それを職員皆で共有しながらその人らしい暮らしを理解し、支援している。また、必要に応じて家族に意見や要望を尋ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや硬さ・柔らかさ、食形態等についての希望をその都度確認しながら、個々に対応している。メニューについても、なるだけ利用者の希望に即したものとなるよう、定期的に意見や要望を伺って献立を検討している。利用者と職員と一緒に食事をとることは勤務時間や配置上困難であるが、特筆すべき問題とならぬよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは午後を基本的な入浴時間としている。ただし、希望があればそれに対応する時間設定を行い、また、併設しているデイサービスセンターの入浴室を利用している。すなわち、時間の希望のみならず、浴槽の大きさや設備の希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人ひとりの状態や希望に沿って、食事の準備や後片付け、ゴミ出しやカーテンの開け閉め、掃除を担っていただいたり、喫茶店巡りや外食外出などの生活の楽しみごとの創造を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者1人ひとりの希望に対応する外出レポートリーを検討し、それを提供している。気分転換や健康維持を目的とした気軽な散歩を日常生活支援の一端としたり、リフト対応バンでの遠出を企画したり、幅広い対応を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵はかけない。但し、防犯上の兼ね合いで、19時から翌日8時半までは施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練(夜間想定、避難、通報等)を実施している。近隣住民にも災害対策の協力を呼びかけている。また、発電機を用意している。	○	今後、災害被害時を想定した食料等備蓄の整備の促進、マニュアルの再検討等を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりの食事量や水分摂取量を把握している。必要に応じて、栄養指導や、食事形態の変更等を検討し、実施している。		利用者の食事摂取量や水分摂取量等のチェック体制は、複数の書類から実施されている。より利便性を高めた使用方法を検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な採光、適度な静寂さに配慮され、居心地の良い共有空間づくりが努められている。また、利用者と職員の手作りの飾り物(インテリア等)や絵や書道の作品も、適度に共有空間を装飾している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の希望に合わせて自由に家具等を持ち込めるようになっている。例えば、仏壇やたんすなど、日頃から使い慣れているものを持ち込み、居心地よく、安心して生活できるようになっている。		